

ゲーム・メディア × 家庭教育支援

小中学生のゲームやスマホの所持率は6~7割となり、家庭にスマホがあることが当たり前になっている。スマホとともに育っていく子どもたち。親や家族、教職員はどのように向き合っていけばよいか。

吾妻地区PTA指導者研修会

保護者として、教職員としてどうしたらよいか考えよう



スマホで撮った写真の位置情報を表示してみる参加者

演題：スマホ世代の子どもとどう向き合うか

講師：ジャーナリスト 石川 結貴 氏

「ネットは危険」「ゲームなんかやってはダメ」大人はつい一方的に子どものネット利用を批判してしまいます。でも、なぜ危険なのか、どうしてダメなのか、その理由を子どもは真に理解しているのでしょうか。

大切なのは、「具体的な情報」を与え、子ども自身に考えさせることです。「無料の仕組み」や「ゲームの中にある仕掛け」などを知ることによって子どもは自分のネット利用を客観的に考えることができます。

また、生活の中で、子どもに何らかの役割を与えることで、子どもは自信と自己肯定感を得ることができるよう。失敗することを恐れず、そこから学ぶことがあることを教えましょう。

大人のリアルな人生や生身の自分を子どもたちに見せていきましょう。

ゲームにのめり込んで日常生活に支障をきたすゲーム依存症の増加により、WHOは疾患としてゲーム障害を認定した。依存を引き起こす要因は何か、この危険を回避するにはどうしたらよいか。

家庭教育支援連携モデル事業

危険性や予防法について知ろう



久里浜医療センター 前園 真毅 氏

演題：子どもの笑顔を守る知恵と工夫

講師：国立病院機構久里浜医療センター

精神保健福祉士・社会福祉士 前園 真毅 氏

子どもが求めているのは「承認」である。日常生活で承認欲求が満たされていないがために仮想空間にそれを求めているのです。

依存症とは…こんなことはありませんか。

- ★優先順位がおかしくなってネットやゲームばかりしている。
- ★ゲーム以外のことは何だかつまらなくなってくる。
- ★自分の気持ちに気付きにくくなる。
- ★家族や友達の気持ちに無関心になってくる。
- ★キレやすくなる。危険に鈍感で投げやりになる。

予防には「ルールづくり」

- ◎本人（子ども）の意向を取り入れよう。
- ◎ルールづくりのプロセスこそが大事。
- ◎定期的な見直し、修正、確認が大切。

<ゲーム・メディア関連のお問い合わせは生涯学習係まで！>

- 保護者や子どもに向けてどのような啓発をしたらよいか相談にのってほしい。
- 講話をお願いしたい。
- 講師を探してほしい。
- 授業で使える資料がほしい。

お電話お待ちしております。
生涯学習係 TEL 0279-75-3370